

付属資料2

時計台建物周辺の変遷

明治期……付2-1～付2-3
大正期……付2-4
昭和期……付2-4～付2-12
平成期…付2-13～付2-23
令和期…付2-24～付2-25

創建当初(明治11年)～明治19年

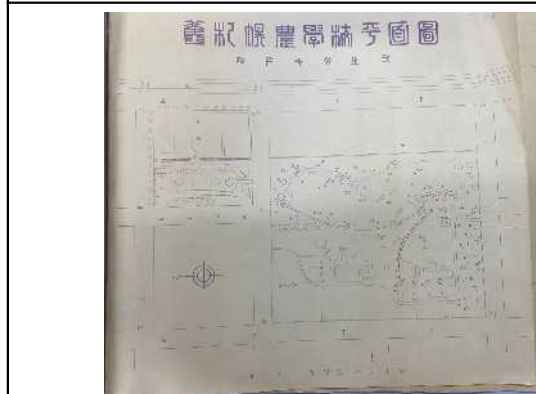
建設当初は時計台周囲には樹木はなく、道と草地があるのみ。



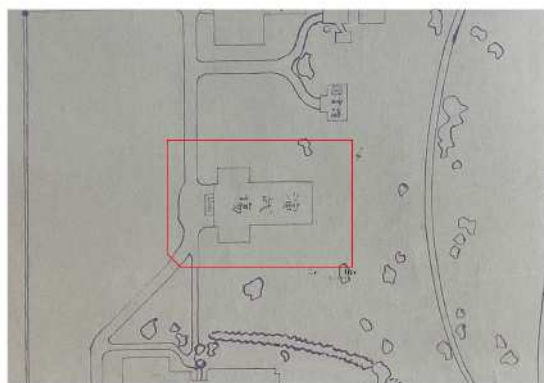
明治11年／演武場開業式当日の札幌農学校学生教職員たち／北海道大学附属図書館所蔵



明治12年／札幌区全景 明治12年の札幌※演武場周辺を拡大／北海道大学附属図書館所蔵



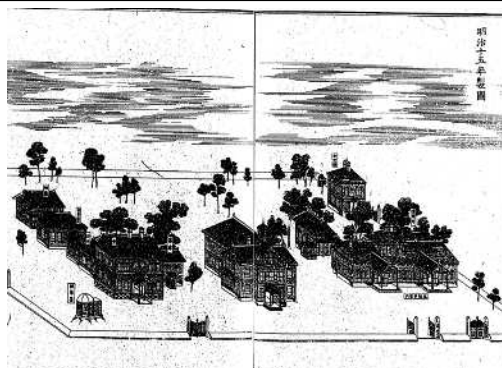
明治13年／札幌農学校平面図／札幌市公文書館所蔵



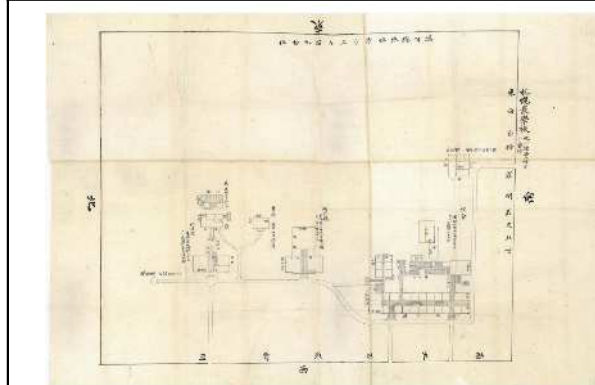
(左図の拡大 敷地範囲入り)



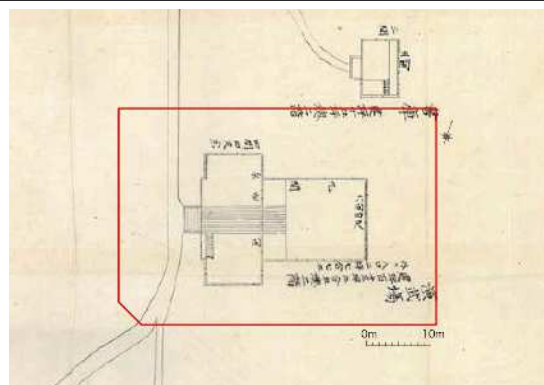
明治14年／時計台を据えつけた演武場／北海道大学大学文書館所蔵



明治15年(1882年)／出典:「北海道志卷之二」(国立国会図書館所蔵)



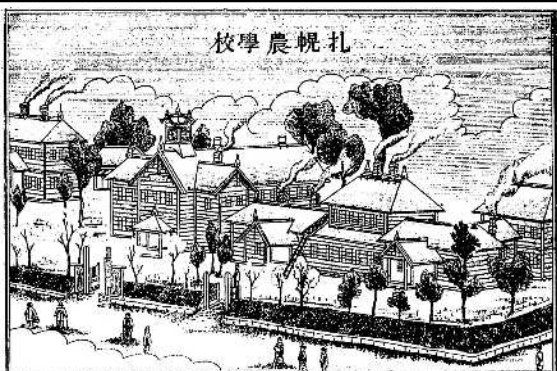
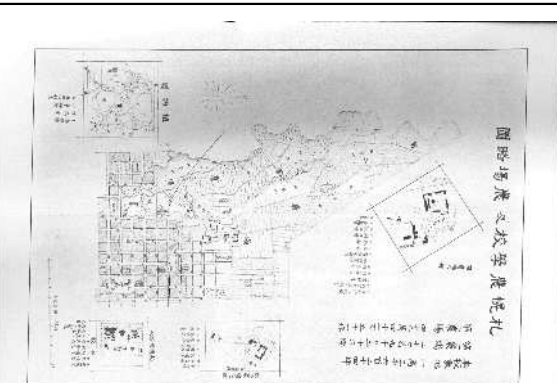
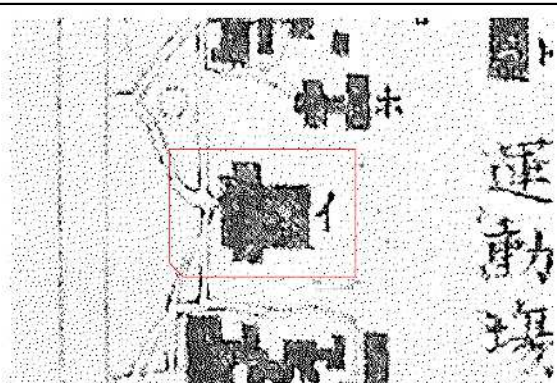
明治15年／札幌農学校校舎の平面図／出典:「札幌農学校引継書 十五年」(北海道立文書館所蔵)

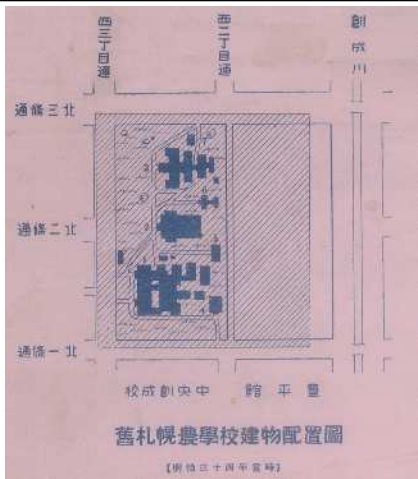
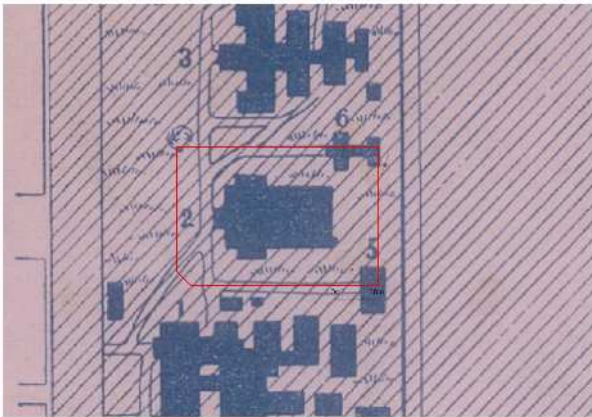


左図の拡大(赤枠は現在の敷地範囲)

明治20～30年代

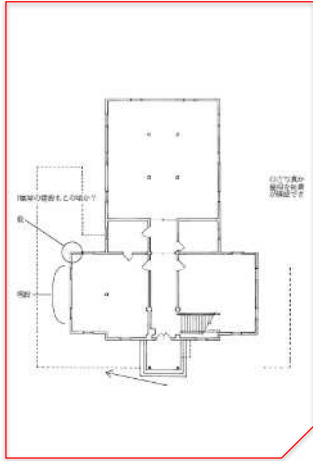
古写真や古地図より時計台の周辺に樹木が数本植えられているのが分かる。

	
明治20年以前／出典：「札幌繁栄図録」明治20年5月出版(国立国会図書館所蔵)	明治22年(1889年)以後／札幌農学校演武場と北講堂／北海道大学附属図書館所蔵
	
明治23年(1890年)／北側より見た札幌農学校校舎／北海道大学附属図書館所蔵	明治25年(1892年)／札幌農学校北講堂と演武場／北海道大学附属図書館所蔵
	
明治31年／札幌農学校及農場略図／出典：「覆刻 札幌農学校」北海道大学出版会	(左図の拡大 敷地範囲入り)
	
明治34年(1901年)5月／札幌農学校創基25年記念式典に際し教職員、学生、卒業生、来賓一同／北海道大学附属図書館所蔵	明治34年5月／出典：「時計台今昔写真集」札幌市教育委員会編

	
明治34年／旧札幌農学校建物配置図／出典：聖蹟「時計台」建物修築記念(昭和8年発行(北海道立図書館所蔵))	(左図の拡大__敷地区域入り)

明治40年代(現在地への移転後)

時計台の西側をコの字で囲むように下屋が増設されている。敷地南側には樹木が数本確認できる。

	
明治42年／現今ノ札幌(其一)／出典：「温故写真帖 第1集(札幌)」(国立国会図書館所蔵)	明治44年／出典：東宮殿下行啓記念(北海道大学附属図書館所蔵)
	
明治40～44年／札幌仮郵便局／出典：『最近之札幌』	明治40～43年／平面図と敷地区域図 ／平面図はH10年保存修理工事報告書より引用

大正期

古写真より周辺には明治に確認できない柵、正面に門と看板が設置されていることがわかる。柵の内側には樹木が植栽されている。



大正7年／出典：「札幌開始五十年記念写真帖」(北海道大学附属図書館所蔵)



大正7～11年／区役所と時計台／札幌市公文書館所蔵

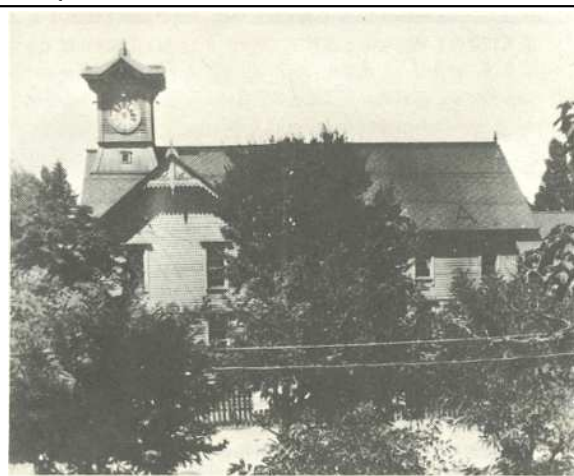
昭和初期

古写真より周辺に柵、柵の内側に樹木が植栽され、樹木は大きく生育していることがわかる。柵は形状より大正期と同じものと考えられる。

昭和9年8月30日に、明治天皇が明治14年9月1日に札幌農学校(現時計台)を訪れたことを記念して、「明治天皇聖跡碑」が設置竣工し、同年9月1日に除幕式が行われた。当初は、碑を中心に芝生・花壇の庭園化の計画がなされ、北海道大学帝国大学農学部助教授前川十郎に設計を依頼したが、庭園整備の工事は中止となり、碑のまわりの整備だけに終わっている。



昭和2年(1927年)／木柵のある時計台／札幌市公文書館所蔵(複製)



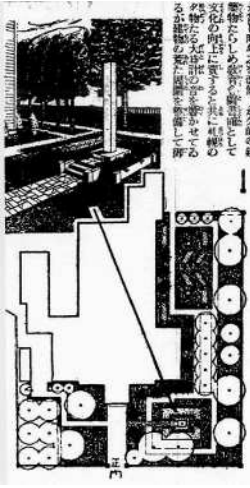
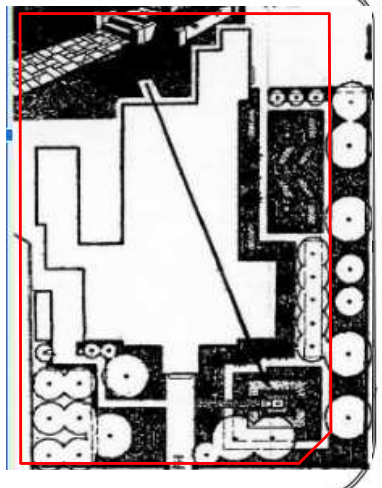
昭和8年／出典：「さっぽろ文庫6 時計台」札幌市教育委員会編



昭和8年／出典：「時計台 今昔写真集」札幌市教育委員会編



昭和8年／出典：「聖蹟「時計台建物」修築記念」札幌市教育会発行／札幌市公文書館所蔵

 時計台の花壇に 聖蹟記念碑 東郷元帥の揮毫 昭和九年三月八日付北海タイムス記事(※)／札幌市公文書館所蔵	 記事内の庭園計画図拡大_敷地区域入り 現在の敷地南側の歩道も含めて当時は時計台の敷地であった。
 昭和十九年(1944年)／軍が使用中の時計台正門南側にあった明治天皇聖蹟碑／出典:「さっぽろ文庫6 時計台」札幌市教育委員会編	

※3月8日付北海タイムス記事には「東郷元帥の揮毫」と記載があるが、昭和九年五月三十一日付北海タイムス「札幌時計台に残る永遠の記念」によると、碑表の執筆を東郷元帥に依頼したが、健康を害しており筆を執れないため、海軍省にある「明治天皇聖蹟」とある書を写真として撮影して碑表に刻むことになったことが記載されている。(東郷平八郎の死去は昭和九年五月三十日)

昭和10年代

昭和16年には柵の前に街路灯が設置されていることが分かる。配置図によると、時計台の敷地の西側（正面）と南側には樹木が植栽され、北側、東側は増設された建物が配置されていることが分かる。



昭和11年(1936年)／出典:「札幌市写真帖」(北海道大学付属図書館所蔵)



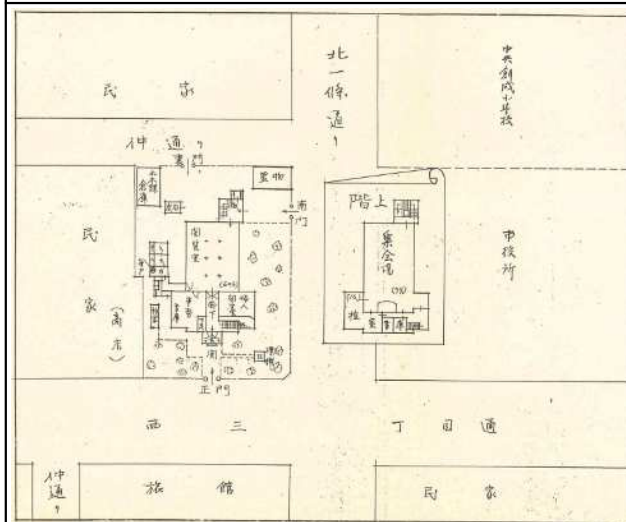
昭和14年頃(1939年頃)／出典:「さっぽろ文庫69 思い出の札幌」札幌市教育委員会編 ※写真には貼紙がつけられているが、この場所は明治天皇聖跡碑の建っていた場所。



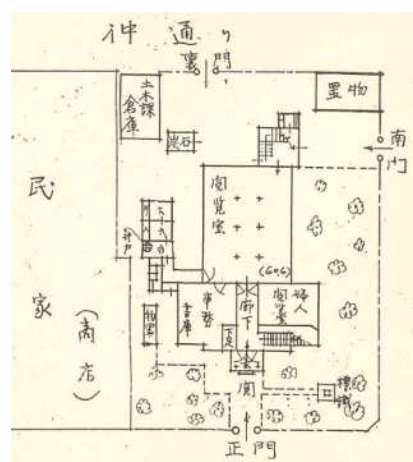
昭和15年(1940年)／札幌市公文書館所蔵



昭和16年(1941年)／街路灯のついた時計台／出典:「時計台今昔写真集」札幌市教育委員会編



昭和8年～昭和24年の間と年代推定される時計台配置図



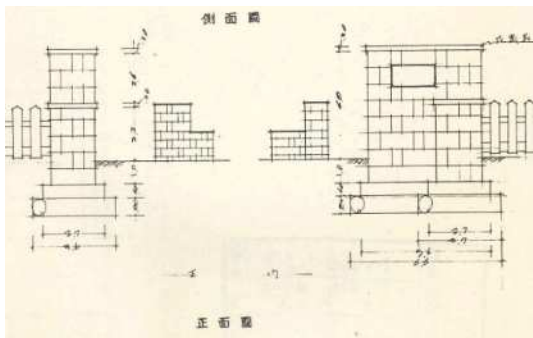
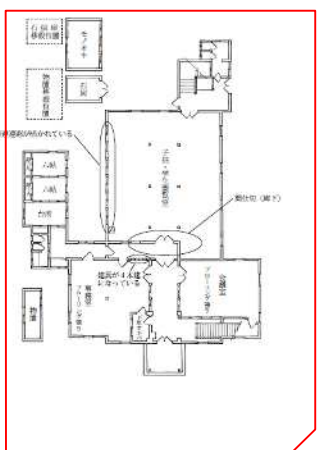
左図の時計台周辺を拡大

昭和20年代

昭和20年には終戦後の連合軍の進駐を前にして、明治天皇聖跡碑が台座だけを残して消える。(さっぽろ文庫6時計台p.264より)

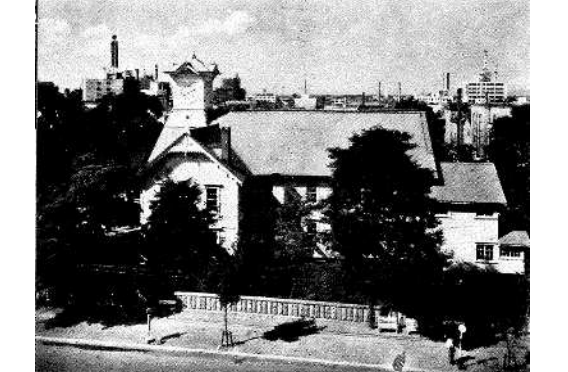
昭和24年には札幌市が札幌市が時計台の明け渡しを受けたのち、市立図書館として利用するための改修工事の際に庭園改修工事も行っている。当時の門・塀の設計図面には木柵で描かれているが、実際には生垣に変更されて設置されたものであることが古写真より分かる。このとき設置された門は、現在まで残るものである。改修後の平面図から、敷地北側は建物で占められていたことが分かる。敷地西側北側の樹木については、古写真より数本程度であることが分かる。

昭和28年には北一条通りの自動車交通量が増加し、時計台前交差点が交通事故多発地点となったため、時計台敷地の南側を削って歩道が作られた。(さっぽろ文庫6 時計台 p.270より)

	
昭和24年／門設計図(正面図、側面図)	昭和24年／改修後の平面図と敷地区域図／ 平面図は平成10年保存修理工事報告書より引用
	
昭和25年／市立図書館としてオープンした時計台／札幌市公文書館所蔵	昭和27年／出典:「時計台今昔写真集」札幌市教育委員会編
	
昭和28年／札幌市公文書館所蔵	昭和28年以降／札幌市公文書館所蔵 ※各種文献では昭和26年の写真と紹介されるが、外壁塗装の色が白色のため、年代訂正して記載している。

昭和30年代

昭和33年5月には、北海道大博覧会の開催前に、敷地境界の生垣を札幌軟石による高さ1.3mの石垣に取り替えた。この環境整備は、博覧会を見に来る外来客を考えての措置だったと思われる。(さっぽろ文庫6 時計台p.271より)

	
昭和31年／出典：「札幌市有形文化財「時計台」調査報告(昭和41年) 付録1調査写真」	昭和31年／出典：「札幌市有形文化財「時計台」調査報告(昭和41年) 付録1調査写真」
	
昭和31年／中央創成小学校から見た時計台／出典：「さっぽろ文庫 6時計台」札幌市教育委員会編	昭和33年4月／石垣にする前の時計台／出典：「さっぽろ文庫 6時計台」札幌市教育委員会編
	
昭和34年／出典：「さっぽろ文庫 6時計台」札幌市教育委員会編	昭和35年頃／出典：「さっぽろ文庫 6時計台」札幌市教育委員会編

昭和40年代

昭和42年に行われた復原工事に伴い、時計台の北側にあった石炭庫等の建物群は解体撤去され、敷地内の配置は現在のものに近い状態となる。昭和30年代の写真と比較すると、塀や正面の看板等の設置物は同じものが使用されており、この改修時に外構整備が行われた様子は確認できないが、その後の写真では看板の設置や樹木が増えていることが確認できる。



昭和42年／敷地北側にあった石炭庫



昭和42年／しゅん功後



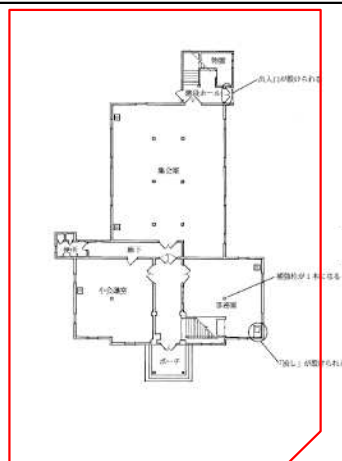
昭和42年／しゅん功後



昭和42年／しゅん功後



昭和42年（しゅん功後



昭和42年／改修後の平面図と敷地区域図／平面図は平成10年保存修理工事報告書より引用

	
昭和43年5月29日／札幌市公文書館所蔵	昭和43年5月31日／時計台の庭に植樹／札幌市公文書館所蔵
	
昭和46年10月／時計台と街並み／札幌市公文書館所蔵	昭和47年(1972年)11月／時計台前交差点／札幌市公文書館所蔵 ※時計台敷地の南西角に重要文化財旧札幌農学校演武場(時計台)の看板が設置されていることが確認できる

昭和50～60年代

昭和49年(1974年)頃から板垣札幌市長(当時)の「時計台の庭の緑をもっと市民にあげはなつ」という趣旨のうちだしがあり、昭和52年6月に翌年の時計台の創建100周年に向けた記念事業の1つとして、時計台修景工事が行われた。この修景工事では、昭和33年に設置された札幌軟石の石垣を取り払い、薄緑の鉄柵フェンスと門扉が取り付けられた。この材料については、隣接の清水建設㈱の材料寄付のほか、それまで塀に使用されていた札幌軟石を横に敷いて基礎としての再利用が図られている。また、もカエデ1本、オンコ6本、シラカバ5本、山モミジ5本、ライラック12本、玉ドウダン12本、ツツジ48本、サツキ13本の新たな植樹も行われ、時計台の敷地内の環境は見違えるほどになった。(さっぽろ文庫6時計台 p.284-285をもとに記載)

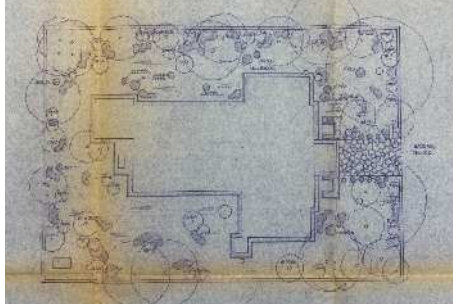
この修景工事の後にも昭和52～59年(1977～1984年)にかけて樹木の個人寄贈があり、エゾムラサキツツジ1本、恵山つつじ1本、ライラック4本、サンザシ1本、メイゲツカエデ1本、アカシヤ1本、シャクナゲ1本、カバレンゲツツジ1本、サラサドウダン1本の植樹が行われている。

植樹の他では、昭和62年6月に説明看板設置(札幌時計台ライオンズクラブ寄贈)、同年10月にガス灯設置(北海道ガス㈱寄贈)が行われている。

また、時計台の周辺環境の大きな変化として、時計台の北側に隣接する敷地でのビル(現・札幌時計台ビル)の建設がある。ビル建設の構想時点では20階建てとする構想もあったが、時計台の美観やビル風による時計台の保存への影響の懸念から、「時計台を守る市民の会(現・さっぽろ時計台の会)」や文化財保護審議会などが、風洞実験の実施や札幌市の建築指導担当部局との協議等に関する意見を出し、これをまとめた要望書が昭和51年4月に札幌市から建築主に提出された。その後、時計台を守る市民の会、学識経験者や文化人ら17人で構成された懇話会が、昭和54年4月に札幌市により設置され、建築主との間での話し合いが行われた。その結果、①時計台とビルの間を空け幅約20メートルの庭園を造る、②時計台と調和の取れた建築様式を考える、③風圧の影響を十分考慮する、という3点がまとまった。これを受け、ビルの高さを14階とする計画変更を行い、ビル建設による風環境の変化は時計台の保存に不都合なものとはならないことを同年9月に行われた風洞実験の結果に基づき確認した上で、ビル敷地の南側(時計台側)に公開空地を設けた札幌時計台ビルが昭和57年8月にオープンした。この公開空地は「時計台ガーデン」として第1回札幌市都市景観賞を受賞している。

※札幌時計台ビルの建設にまつわる経緯は、以下の4つの新聞記事の内容を元に記載。

- ①昭和52年2月4日付北海タイムス「時計台/ひと安心/札幌のシンボル/北側のビル建設計画/12、13階建てに変更」
- ②昭和54年9月25日付北海道新聞夕刊「動き出す”時計台北側ビル”/庭園造り美観配慮/三日から市建築審査会/来月中に設計完成」
- ③昭和54年11月30日付北海道新聞「札幌時計台・北隣ビル建設/風の悪影響心配ない/市民懇話会実験結果を了承」
- ④昭和55年6月13日付北海道新聞「ついに”目隠し”札幌時計台/隣接ビル、八月着工/どうする景観/下旬から壁の色などで話し合い」

	
昭和52年2月／修景工事前／札幌市公文書館所蔵	昭和52年／時計台廻り植栽整備計画図
	
昭和52年12月／修景工事以降／札幌市公文書館所蔵	昭和53年9月／札幌市公文書館所蔵

	
昭和53年10月／札幌市公文書館所蔵	昭和54年1月／札幌市公文書館所蔵
	
昭和55年10月／札幌時計台ビル建設中／札幌市公文書館所蔵	昭和57年4月2日／札幌時計台ビル建設中／札幌市公文書館所蔵
	
昭和57年8月以降／札幌時計台ビル公開空地／札幌市公文書館所蔵	昭和62年6月／説明看板設置 ※写真は令和7年撮影のもの
	
昭和59年／ガス灯設置前の電灯／札幌市公文書館所蔵	昭和62年10月16日／ガス灯設置後の点灯式／札幌市公文書館所蔵

平成初期(保存修理工事前)

平成6年8月時点での時計台敷地内の植栽は、樹木本数121本(高木36本 低木・小木85本)。敷地の樹木が全体的に過密化しており、以下の問題が確認されていた。

1. 高木の下にある低木・小木や下草(芝生等)が育たず、生育が貧弱となった。
2. 幹が斜めに伸びるなど、樹形が悪化した。
3. 適切な剪定等の管理が行き届かず、ニセアカシアやシラカバ等の枝の徒長が目立ち、夏季には時計塔が隠れその姿が殆ど見えなくなった。
4. 樹液が屋根鉄板に落ち、これに汚れが付着するため、建物の保護および美観上好ましくない状況となった。

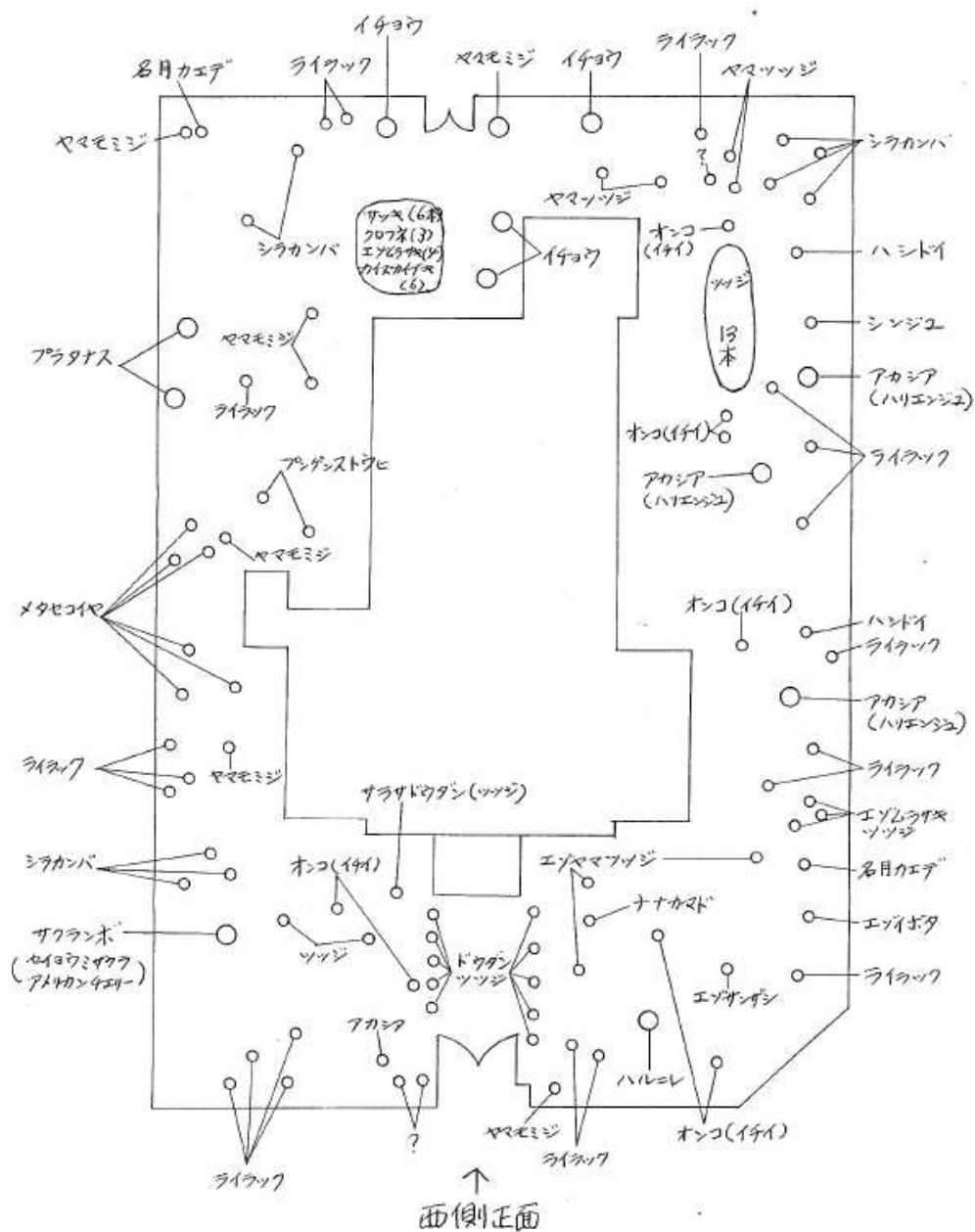
また、翌年からの保存修理工事に先立ち、以下の範囲で支障となる時計台敷地内樹木60本(高木12本、低木48本)を芸術の森アートホールへ移植している。

- 敷地東側(保存小屋、監理事務所、施工者事務所の配置に支障)
- 建物外壁から約1.8m以内(素屋根・足場の設置に支障)
- 敷地北東部(資材搬入用車両スペース確保に支障)

	
平成6年8月／上から	平成5年8月／正面
	
平成5年8月／南側	平成5年8月／南側
	
平成6年8月／敷地内北側	平成6年8月／敷地内南側



時計台敷地内の植栽樹一覽 (74) 1992.7.29



平成4年7月時点／時計台敷地内植栽状況

平成10年(1998年)時計台活用工事

以下の敷地の整備方針に基づき、「時計台活用工事」として平成10年に整備された

- 正面の混雑を緩和するとともに、市民に親しまれる空間とするため、敷地の開放性を高める。
- 外部からの見学・理解のために散策路を整備する。
- 農学校の史的価値を尊重し、時計台と調和した自然な雰囲気を保つ。
- 四季を通じた利用を図る。
- 雨水、融雪水からの建物保護に配慮する。

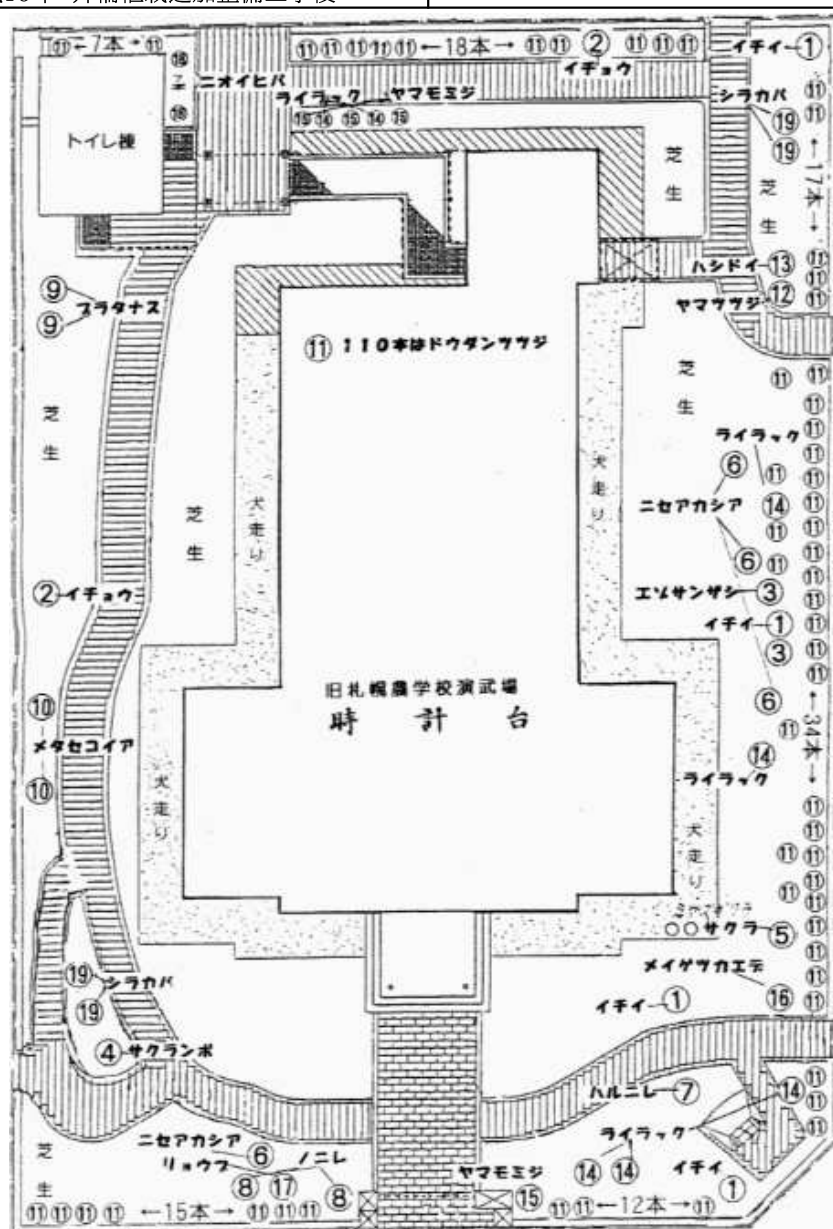
この方針を受け、敷地の開放性を高める目的で、塀上部の鉄柵は撤去され、流用した横置ききの軟石塀の上に笠木を取り付けた塀の整備を行ったほか、軟石を敷いた散策路の整備、その他設備機器の新設・更新等が行われた。

また、「時計台外柵植栽追加整備工事」として、軟石塀沿いにドウダンツツジ110本及び芝の植え付けも行われている。なお、時計台南側について、この時点では観光客は敷地外の歩道を使う想定であったため、敷地内南側の道の整備は行われていない。

	
平成10年／街灯(3基)更新 ※令和7年撮影	平成10年／ライトアップ照明(4基)更新 ※令和7年撮影
	
平成10年／放水銃(2基)の新設 ※令和7年撮影	平成10年／軟石積の塀、園路の新設 ※令和7年撮影
	
平成10年／インターホン新設 ※令和7年撮影	平成10年／外柵植栽追加整備工事後



平成10年 外柵植栽追加整備工事後



平成11年6月時点／時計台敷地内植栽状況

平成10年(1998年)リニューアルオープン後の整備内容

リニューアルオープン以降も外構にはその都度整備が加えられている。以降は時系列順にその内容を記載する。

平成15年10月30日～12月1日 時計台撮影台回り及び前庭舗装等整備工事

平成15年11月14日～12月1日 時計台南側園路新設工事

観光客の立ち入りにより芝地が剥げる部分について、以下の内容の舗装整備を実施。

- 撮影台回り及び前庭(西側建物入口回り)に透水性ブロックの舗装工事。
- 撮影台回りにライラックの植え込み。(※平成22年に枯損したため伐採)
- 敷地内南側に透水性ブロックの園路を新設する舗装工事を実施。

	
平成15年／前庭舗装前	平成15年／前庭舗装後
	 ライラックの植え込み (平成22年伐採)
平成15年／撮影台回り舗装前	平成15年／撮影台回り舗装後
	
平成15年／敷地南側舗装前	平成15年／敷地南側舗装前

平成16年(2004年)3月12日～3月31日 時計台北側危険木・支障木剪定

平成10年度に整備して以来、敷地北側の樹木については剪定を行っていなかったため、プラタナス2本、イチョウ1本、メタセコイヤ2本、シラカバ2本の計7本の剪定。当時の資料に「平成10年度の時計台のリニューアルオープンにあわせて屋外の園路を整備したが、このとき園路にかかる部分の根を切除しているため、枝葉が伸びてくると強風等にあおられ、倒木の恐れがある。」という記載があり、今後とも注意を要する。

平成16年(2004年)3月 物置設置

既存の物品庫(2階倉庫及び東階段室階段下)では敷地内の清掃用具や除雪用具、凍結防止電熱ゴムマット等が保管できないため、トイレ棟西側に物置を設置。



平成16年(2004年)札幌中心部ガイドマップ看板及び案内板

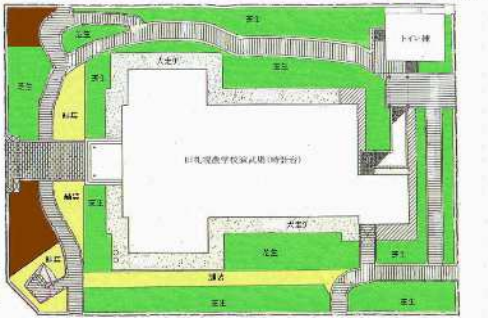
札幌時計台ライオンズクラブの結成25周年記念事業として寄贈設置。



平成16年(2004年)7月 時計台緑化整備工事

時計台の緑化整備として、下図計画図緑色の範囲の芝生の張り替えを実施。

札幌市環境局緑化推進部による、さっぽろ元気ビジョンの基本目標の一つである「世界に誇れる環境の街さっぽろ」の重点課題「水とみどりのうるおいと安らぎのある町の実現」に向けての市民・企業とともに街の緑化への取り組み施策の一つ。街中の緑化促進について市が先導的役割を果たすものとして、公共施設緑化を計画した。

	
平成16年/時計台緑化整備計画図	正面整備後 ※平成17年8月撮影
	
南側整備後 ※平成17年8月撮影	北側整備後 ※平成17年8月撮影

平成19年(2007年)3月28日 撮影台更新

撮影台の1段あたりの高さが高く、また手摺がなかったことから、足をひっかけたり、踏みはずしたりする方がいたほか、平成18年10月15日には利用者が転落して頭部を怪我する事故が発生したために更新。安全性を高めるために1段あたりの高さを低くして3段とし、手摺を設けた。材質は木製で作られた。

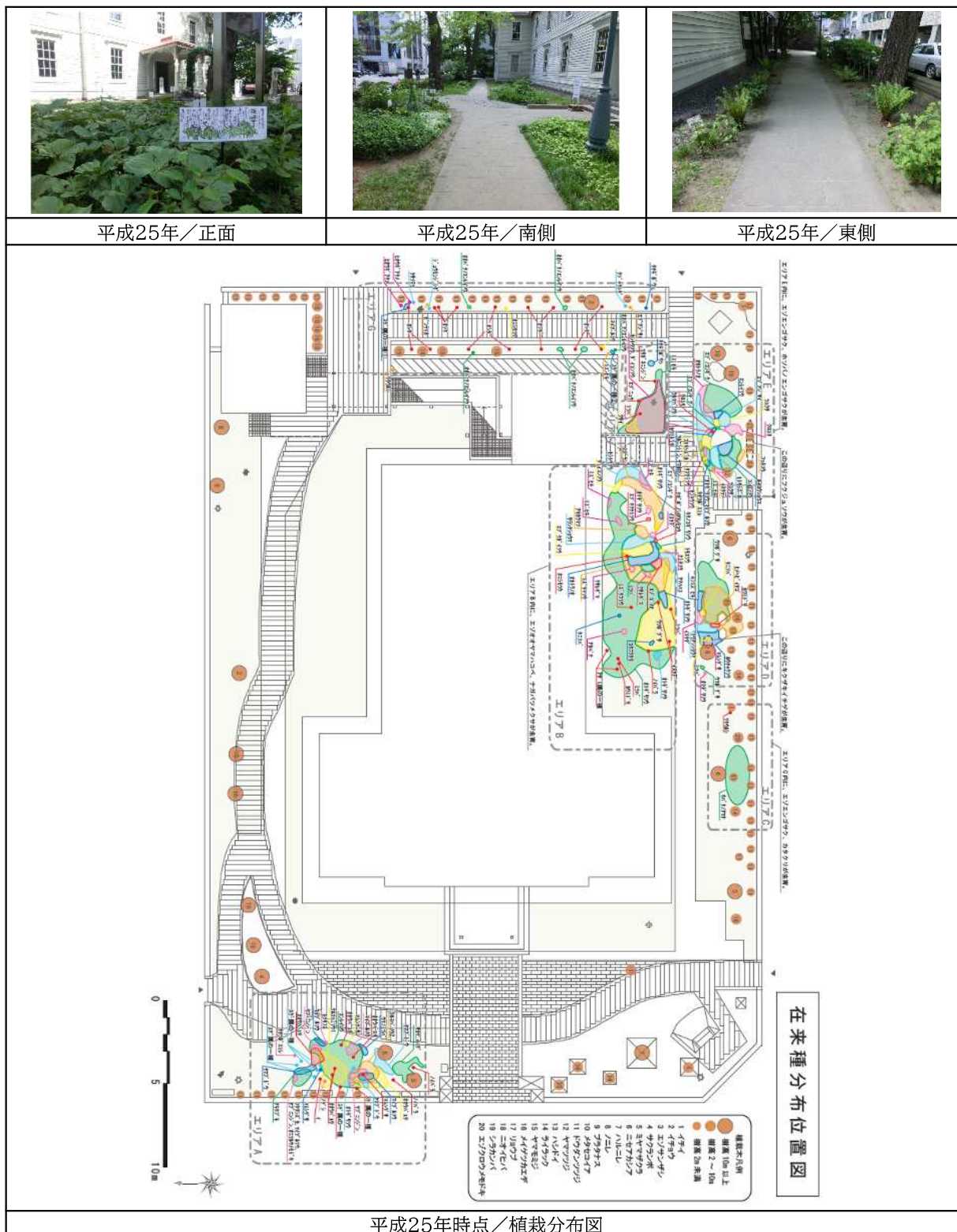
	
平成19年/撮影台更新前	平成19年/撮影台更新後

平成20年～22年(2008年～2010年) 野草園の整備

平成20年の時計台創建130周年を機会に市民有志の提案により、時計台敷地内に都市化によって失われた札幌農学校や札幌にゆかりの野草などが市民の手により植えられたことがはじまり。

その後の平成22年度までは、札幌市環境局みどりの推進部みどりの推進課による「都心のまちかど美緑(みりよく)アップ事業」の一環として、市民ボランティア及び同部との協働により、種類・量を充実させた野草園の整備(敷地内南側・東側)を行った。

特筆すべき野草としては、オオバナノエンレイソウ(札幌農学校の後身北海道大学の校章)、クロユリ(有島武郎が指導的立場にあった東北帝国大学農科大学美術部「黒百合会」に名をとどめる)、スズラン(ニホンスズラン:札幌の花であり、観光客の期待は高いが市街地には少ない)が挙げられる。



平成21年(2009年) LED照明付き告知板設置(札幌時計台ライオンズクラブ寄贈)

平成16年に札幌時計台ライオンズクラブ寄贈により設置した掲示板は、サイズが小さく標準的なポスター掲示ができなかったことや照明器具がなく見えにくかったことから、同クラブの結成30周年記念事業として寄贈により更新。

平成22年(2010年) 標柱「札幌農学校用地」設置

篠路の札幌農学校第3農場の境界石標の一つ。詳細な経緯は不明だが、第3農場での何らかの工事の際に撤去されたものが、時計台の東階段室倉庫に保管されていたもの。平成20年の東階段室でのバリアフリー改修工事の前に倉庫から出して敷地内に仮設置していたものを平成22年に敷地内南東側に設置。

	
平成21年設置／LED照明付き告知板	平成22年設置／標柱「札幌農学校用地」※令和7年撮影

平成26年(2014年)6月 敷地南東角シラカバ伐採

5/26(月)の強風の影響により、時計台敷地南東角にあったシラカバに地上から2m弱のところに亀裂が生じた。亀裂部分の再生は難しく、また、至急対応しなければ倒木の危険性があり緊急を要することから、人や建物への影響の大きさを考慮し、6/2(月)夜間に管理上やむを得ず伐採を指定管理者(MMS)で実施した。

平成26年(2014年)7月 北側野草園整備

「札幌国際芸術祭2014創造都市さっぽろ推進プログラム事業」として、当時の国際芸術祭のテーマの一つであった「自然」をクローズアップし、時計台の北側敷地内に花壇造成及び野草の植栽を実施した。北側は日照条件が良くないため、日陰でも生育可能な野草を植栽することとし、大学研究者等の専門家の意見を取り入れながら植栽計画を立てた。また、北側敷地に生育するメタセコイヤやプラタナスの高木については、野草園への日照確保及びこれらの枝が時計台建物に悪影響を及ぼさないよう、適宜剪定を行うこととしている。



平成26年／北側野草園整備後

平成26年(2014年)8月 照明LED化 (MMS寄贈)

指定管理者(MMS)の寄贈により、時計台のライトアップ照明、外灯照明及び館内照明のLED化を実施(※器具の更新ではなく、球のみのLED化)

平成26年(2014年)11月 敷地北西角シラカバ伐採

樹木診断により危険と判断されたシラカバの伐採と隣接するメタセコイヤの木2本の剪定)

平成27年(2015年)8月 防犯カメラ設置

詳細は保存活用計画第4章防災計画(非公開)を参照。

平成28年(2016年)3月 カラーマンホール蓋と説明看板設置(下水道河川局)

下水道広報プラットホーム(GKP)が企画・監修するマンホール蓋コレクションカードの第1弾(28都市、30種類)企画に参加する目的で、下水道河川局がマンホール蓋をカラー化。

(※平成30年の指定管理者事業報告書に「敷地内カラーマンホール交換作業実施【札幌市下水道局発注】」と記載があるので、現在のものは2代目と思われる。)

	
平成28年／設置時 ※蓋周囲にあるのは赤色砂利	令和6年現在 ※赤色砂利は平成30年に撤去したと思われる

平成28年(2016年)10月 南側ニセアカシア伐採

樹皮がほとんど浮いており、腐朽が進んだ状態で、いずれ幹まで腐朽する見込みが高い危険な状態であったことから伐採。

	
伐採前	伐採後

平成31年(2019年)3月 撮影台更新

平成19年設置の木製撮影台が劣化し、床が抜けそうになっていたため、合成木材製のものに更新。



更新前
※平成19年撮影



更新後(平成31年設置)
※令和7年撮影

平成31年(2019年)3月 札幌市内観光ガイドマップ表示面更新

平成16年に札幌時計台ライオンズクラブ他3団体が設置し、札幌市へ寄贈されたものの更新(札幌市発注で実施)。札幌中心部では閉館した施設や名称変更した施設、及び新たに開館した施設が多くあり掲載内容が陳腐化していたため更新。



更新前



更新後

平成31年(2019年)3月 時計台観覧案内看板更新

指定管理者(MMS)発注で実施。



更新前



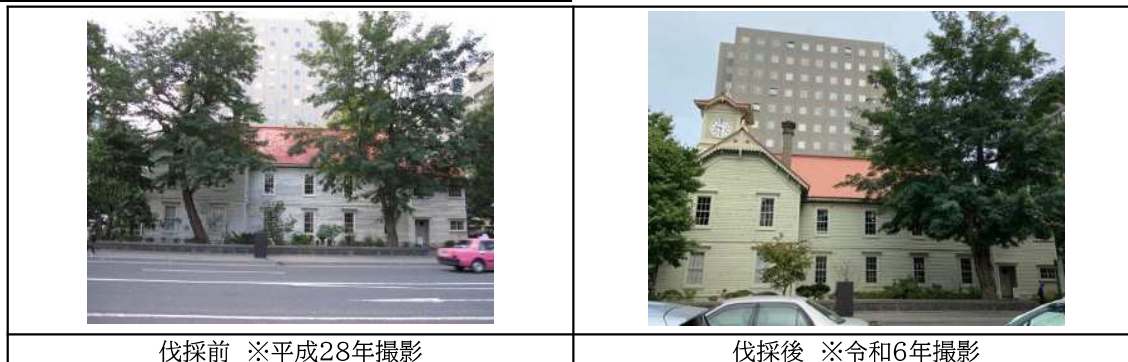
更新後 ※令和8年撮影

令和元年(2019年)12月 ロードヒーティング盤改修

札幌市建設局土木部雪対策室が管理する時計台正面前の歩道ロードヒーティング設備の分電盤及び電源引き込み線を設置。

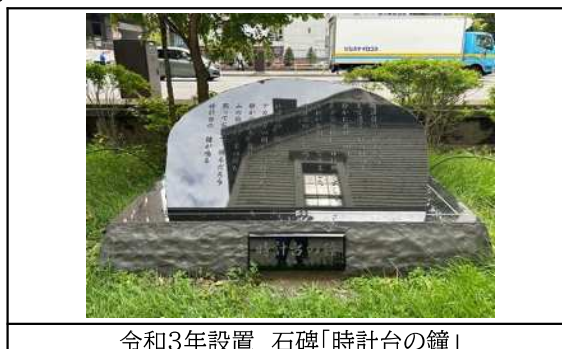
元々は1982年に分電盤だけ設置されていた。平成31年の保守・点検時に北電からの電源引き込み線の断線を確認(中央区土木部で平成31年春に発注した街路樹の植替時に誤って切断)。早期復旧のため、元々の配線ルートを変更し、時計台敷地内北側で電源引込線が通るルートに変更して設置(分電盤は元々の位置で改修設置)。

令和2年(2020年)1月 南側ニセアカシア伐採



令和3年(2021年)9月 石碑「時計台の鐘」設置(寄贈)

寄附者自身がコロナ禍で外出自粛となり、自宅で日本の美しい歌のDVDを見ていたところ、多くの歌に記念碑があることを知った。生まれ育ち、自らの事業の発展をもたらした札幌への感謝の気持ちとして寄附を思い立った。



令和3年設置 石碑「時計台の鐘」

令和3年(2021年)9月 石碑「明治天皇聖蹟碑」再建立

明治14年9月1日に明治天皇が札幌農学校(現時計台)を訪れたことを記念し、昭和9年9月1日に建立されていたもの。昭和20年の終戦直後、連合軍の進駐を前に撤去され、戦後の混乱を経てその所在は永らく不明だったが、中島公園管理事務所裏で保管されているのが発見され、その後は西区の「手稲記念館」で保管していた。時計台の歴史を理解する貴重な資料であり、明治天皇行幸140年目となる令和3年に再建立することとした。



令和3年再建立 明治天皇聖蹟碑

令和6年(2024年)8月 札幌市内観光ガイドマップ表示面更新

札幌時計台ライオンズクラブの結成45周年記念事業として寄贈。



令和7年(2025年)1月 南側ニセアカシア剪定

ニセアカシアの幹の割れが確認された。窪みの部分に雨水がたまり腐っていくことや、枝分かれしている部分の重心が歩道側にあり、台風等で折れたときに、重大な事故が発生する懸念から剪定を行った。

